

公立大学法人島根県立大学次期（第2期）中期目標策定にあたっての論点整理

項 目	課題・論点	参考（現状・背景）
人材育成	<p>◆実社会で通用する人材育成 →社会に輩出すべき人材とはどのような人材か。 →県内産業界が求める人材ニーズとは。</p> <p>◆北東アジアで活躍する人材の育成 →北東アジア研究も含め、産業界や国際的にも活躍できる人材とは。</p> <p>◆地域課題解決に貢献できる人材の育成</p>	<p>○議会からの意見 ・北東アジアのマーケット全体で活躍できる人材作りを重視する必要がある。 ・実戦で活躍できる人材を輩出し、各地で活躍してもらうことでつながりが強化する。それが島根の経済発展につながる。 ・高等教育の最終目的は人材づくり。県立大学は地域に貢献する人材づくりと北東アジアに精通した人材づくりが必要。</p> <p>○産業界からの意見 ・最近の若者について思うこと 社会人基礎力（常識）が低下している。 競争心がない。 コミュニケーション能力が低い。 国語力、文章力が落ちている。 人の顔色伺わずマイペース、報告がない、すべてメールで済みます。</p> <p>・教育現場への意見 教養（歴史の認識）が必要。 道徳をしっかり教えてほしい。 英語、韓国語、中国語の教育環境作りをしてほしい。 高校生の段階から県内企業を知るべきだ。</p>

項 目	課題・論点	参考（現状・背景）
キャリア支援（就職、進学等）	<p>◆県内就職（公務職場を含む）の拡大（学生に魅力がある雇用拡大）</p> <p>→県立大学であるため、県内就職の拡大を図る必要がある。</p> <p>→県内就職の拡大を図るためには、学生の希望する就職先も増やす必要がある。</p> <p>→公務職場への就職拡大も念頭におく必要がある。</p>	<p>○県内には、学生が希望する就職先が少ないため、どうしても県外へ流出してしまう。（浜田）</p> <p>○就職率は、法人化以来高い率を維持し、また、就職先は一部上場など有名企業へも多く、評価を受けているが、一方で県内就職率は、浜田で約3割、松江・出雲で各約6割にとどまっている。</p> <p>○キャリア支援プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学直後からキャリア教育により学生の学問、就職に関する高い意識付けを実施 <p>○インターンシップの受け入れ（産業界からの意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学1、2年生を対象に1週間くらい体験させることは可能。 ・アルバイト料を払いながら、ある程度長い期間受け入れることも可能。 ・1か月のインターンシップは短い。 ・1社だけでなく複数社回るのが良い。

項 目	課題・論点	参考（現状・背景）
地域貢献	<p>◆地域課題解決への積極的参画</p> <p>◆行政等との連携強化</p>	<p>○県立大学の存在自体が地域貢献に繋がっているが、具体的に何が地域に還元されているか見えにくい。</p> <p>○県民への学習機会の提供・・・公開講座</p> <p>○地域活性化に対する支援・・・浜田市や松江市などとの連携協定</p> <p>○県議会からの意見</p> <p>・世界情勢、社会情勢を把握するために情報収集・分析が必要。県は行政課題、地域の課題、情報を持っている。先ず、県と大学との一層の情報交換・連携が必要ではないか。</p> <p>○評価委員会からの意見</p> <p>・県大生がボランティア活動などで地域貢献すること、また、県大生の存在自体が西部地区の活性化に繋がっている。もう少し言えば、大学の学問・研究が地域や県行政をどう動かしているか、つまり地域にどういうふうに戻元されているかそこを知りたい。</p>